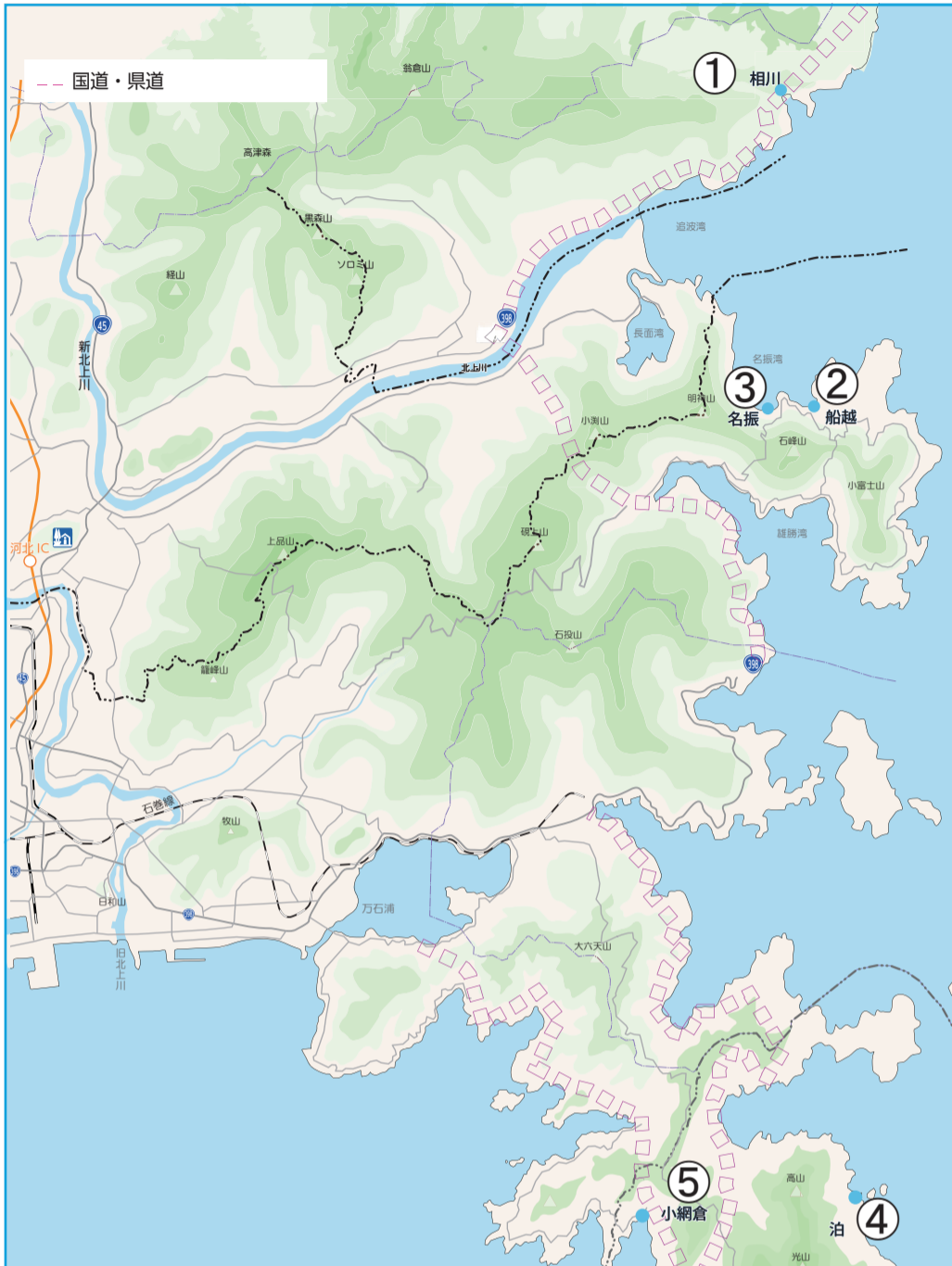


漁港の復旧工事が進んでいます

東日本大震災により、市内の漁港は、防波堤の流失や物揚場の沈下等、大きな被害を受けました。各地で漁港の復旧工事が進められていますが、今回はそのうちのいくつかを紹介します。

明日へと響け 復興のつち音

このコーナーでは、石巻の復興や復旧の様子を紹介します

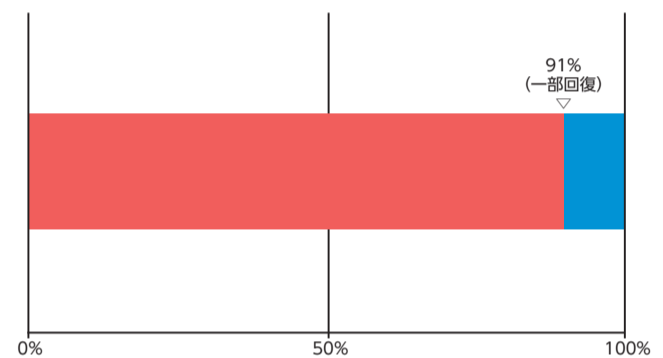


漁港および漁業の被害状況

被災漁港数 44港 (市内全漁港)
 ・県管理10港 + 市管理34港
 被害額 約1,673億円
 ・県管理漁港 約981億円
 ・市管理漁港 約692億円
 損失漁船数 2,762隻 (被災前3,230隻 = 85%)
 ※損失防波堤破損流出多数、定置網や養殖施設はほぼ全壊となりました。

復旧の進捗状況

・市管理漁港34港のうち31港で陸揚げが可能となりました。



(7月末時点)

※市管理漁港のみ計上

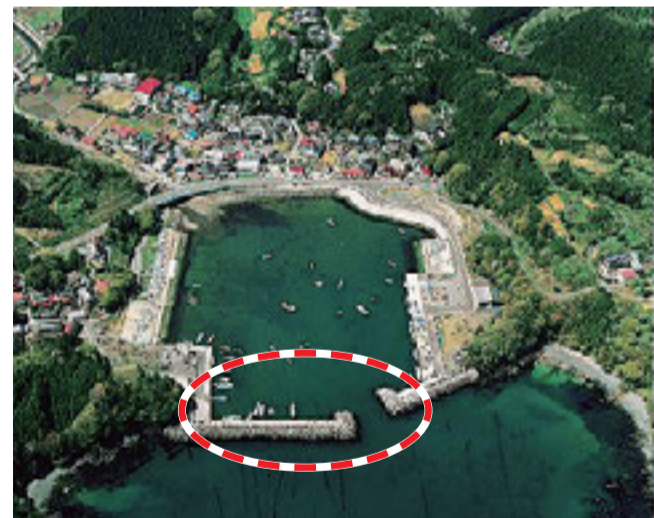


北上漁港 (相川地区) では、流失した東西の防波堤等の復旧工事が行われています。

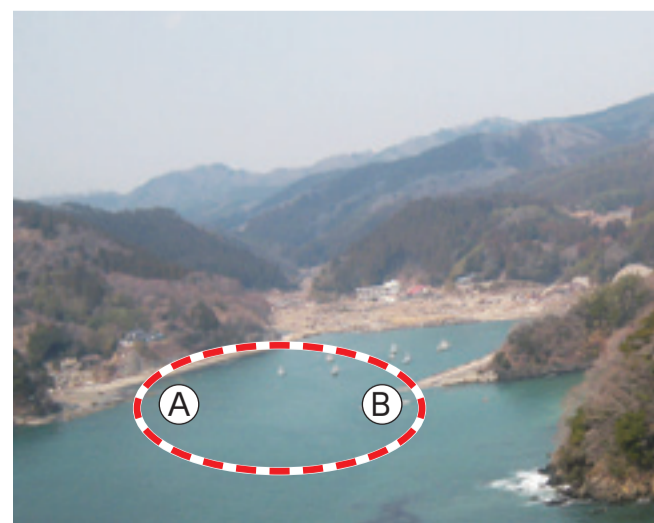
▲西防波堤 (被災状況写真A) は消波工を除きおおむね完成しました。(8月撮影)



▲▼東防波堤 (被災状況写真B) は、現在、復旧工事が進められています。(上: 8月撮影 下: 9月撮影)



▲被災前



▲被災状況 (平成23年3月撮影) 防波堤が流失しました。

① 北上漁港 (相川地区)

③ 名振漁港



▲沈下した物揚場 (平成23年3月撮影)



▲一部復旧工事が完了した物揚場 (8月撮影)



▲船越漁港全景 (8月撮影)



▲防波堤の整備が進められています。(8月撮影)



▲沈下した防波堤 (平成23年3月撮影)

船越漁港では、沈下した防波堤等の復旧工事が行われています。

② 船越漁港

④ 泊漁港

泊漁港では、沈下した物揚場等の復旧工事が行われています。

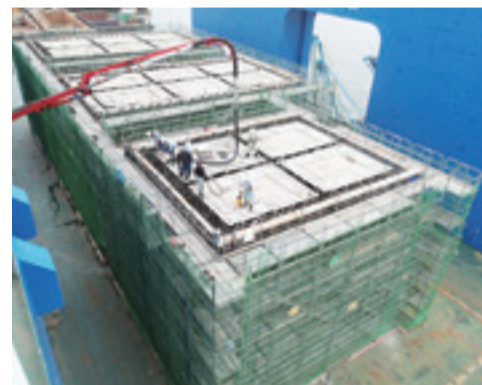
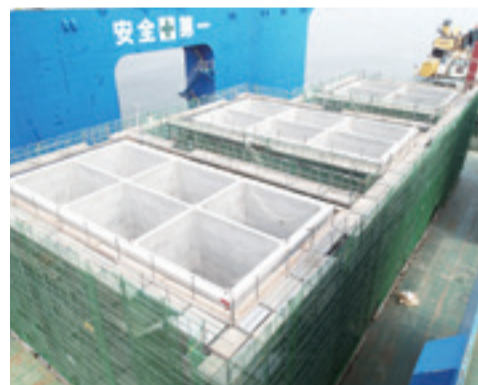
(9月撮影)



防波堤の復旧

防波堤の復旧では、鉄筋コンクリートで作られたケーソンという本体部を海底に設置します。

ケーソンは別の場所で製作され、引船(タグボート)で現場まで運ばれます。



▲上の写真は、泊漁港で使用されるケーソンです。高さ9メートル、重さ約700トンの大きさです。(8月撮影) ケーソンは、フローティングドックという海上に浮かんだ設備で製作されます。(写真の青い部分がフローティングドック) 製作が完了すると、ドック自体を沈ませて完成したケーソンを引き出します。



▲写真右側には、沈下した物揚場と防波堤が見えます。



▶共同かき処理場



▲整備された物揚場



▲沈下した物揚場

(9月撮影)

小網倉漁港では、沈下した物揚場と防波堤等の復旧工事が行われています。現在、一期工事が完了し、二期工事に向けて準備中です。

⑤ 小網倉漁港